貸出パネル一覧表

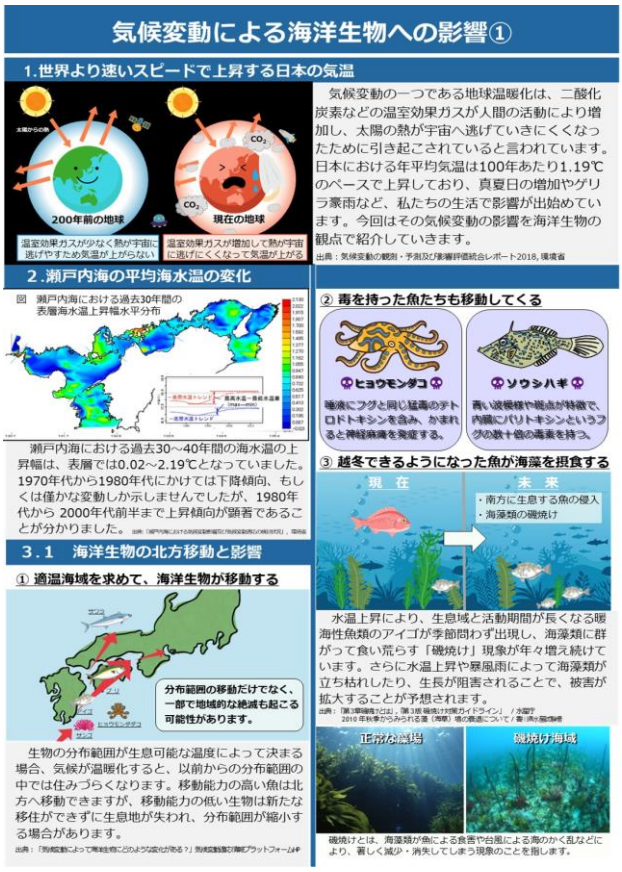
（公社）瀬戸内海環境保全協会

作成年	パネル種類	内容	サイズ	毎数
2001 年 ～2023 年	瀬戸内海環境保全推進ポスター原画パネル	瀬戸内海環境保全推進ポスターの入選作品の原画 作品は下記 URL（瀬戸協ホームページ）で確認できます。https://www.seto.or.jp/poster	A2（縦） 420×594 ㎜	年度毎 最優秀賞 1 枚 優秀賞 2 枚 佳作10枚前後
2023 年	気候変動による海洋生物への影響	近年、問題になっている気候変動が、瀬戸内海の海洋生物にどのような影響を与える可能性について解説しています。 [2 部作]	A1（縦） 594×841 ㎜	各 1 枚 電子データあり
2022 年	きれいで豊かな海をつくるアマモ	海のゆりかごと呼ばれるアマモの生活史や海洋環境における役割をはじめ、アマモ場の保全に向けた取り組みも紹介しています。[2 部作]	A1（縦） 594×841 ㎜	各 1 枚 電子データあり
〃	瀬戸内海の養殖ノリのこしょこしょ話	ノリの生活史・養殖方法、また、近年ニュースで取り上げられている色落ち問題について紹介をしています。[2 部作]	A1（縦） 594×841 ㎜	各 1 枚 電子データあり
〃	スナメリってどんな生き物？	瀬戸内海において豊かな海の象徴とされているスナメリについて、クイズ形式で学べるポスターになっています。[2 部作]	A1（縦） 594×841 ㎜	各 1 枚 電子データあり
〃	鳴門海峡ではなぜ渦潮が発生するの？	鳴門海峡で渦潮が発生する理由等について、科学的な視点から解説しています。 [2 部作]	A1（縦） 594×841 ㎜	各 1 枚 電子データあり
2021 年	瀬戸内海における海洋ごみ問題	瀬戸内海における海洋ごみの流入量やマイクロプラスチックの影響についてわかりやすく解説しています。	A1（縦） 594×841 ㎜	1 枚 電子データあり
2013 年	瀬戸内海の風景	平成 25 年に行った瀬戸内海環境保全特別措置法制定 40 周年記念事業「瀬戸内海フォトコンテスト」入選 30 作品 作品写真は下記 URL（瀬戸協ホームページ）で確認できます。 https://www.seto.or.jp/promotion/kako/photocon	最優秀賞 B2（横） 728×515 ㎜ 優秀賞 B3（縦・横） 515×364 ㎜ 入選 B4（横） 364×257 ㎜	1 枚 2 枚 27 枚
2011 年	里海について	里海とは何か？の解説や里海づくりの方法・実例紹介をしています。※全 10 枚	A1（縦） 594×841 ㎜	電子データあり ※SETO-D-01 ～03-J（計 3 枚） は電子データなし
〃	スナメリの紹介	スナメリの生態情報をはじめ、瀬戸内海においてスナメリが減少した理由について説明しています。※全 2 枚	A1（縦） 594×841 ㎜	各 1 枚 電子データあり
2007 年	海洋ごみについて	①海洋ごみによる問題 ②海岸に漂着する主なごみ ③海洋ごみを減らすために ④海洋漂着ごみのモニタリングの方法 ⑤ゴミは、どこからやってくるの？ ※全 5 枚	A1（縦） 594×841 ㎜	各 1 枚 電子データあり ※⑤ (SETO-C-08)は 電子データなし

パネルサイズ　A1（縦）594×841 ㎜

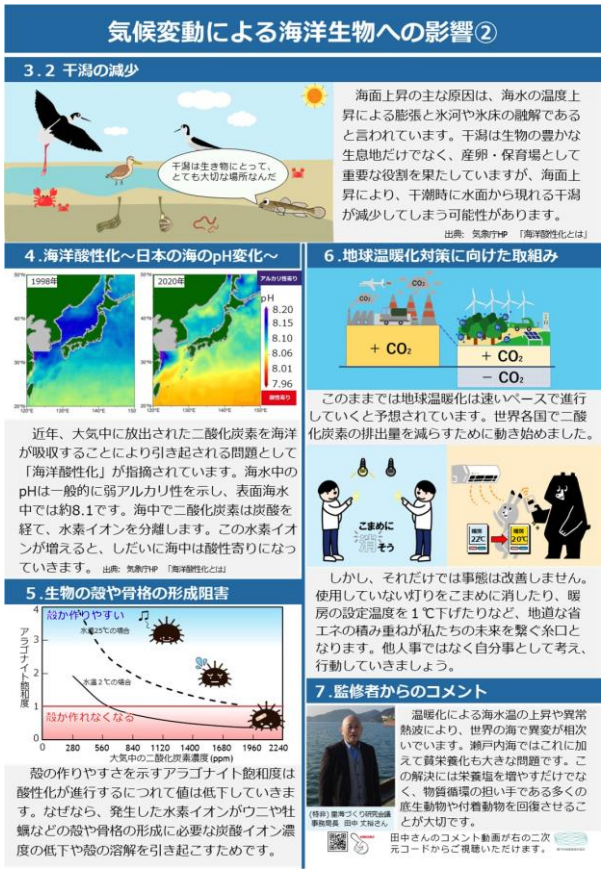
気候変動による海洋生物への影響 ①

作成日：2023年3月　※PDF データ有



気候変動による海洋生物への影響②

作成日：2023年3月　※PDF データ有



きれいで豊かな海をつくるアマモ ①

作成日：2022年7月　※PDF データ有

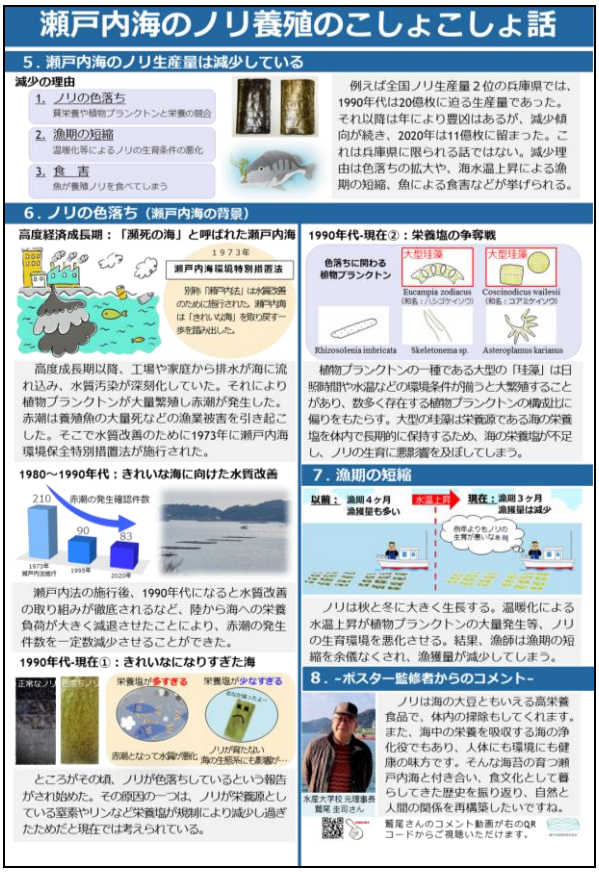
きれいで豊かな海をつくるアマモ ②

作成日：2022年7月　※PDF データ有

パネルサイズ　A1（縦）594×841 ㎜

瀬戸内海の養殖ノリのこしょこしょ話①
作成日：2022年5月　※PDF データ有

瀬戸内海の養殖ノリのこしょこしょ話②
作成日：2022年5月　※PDF データ有

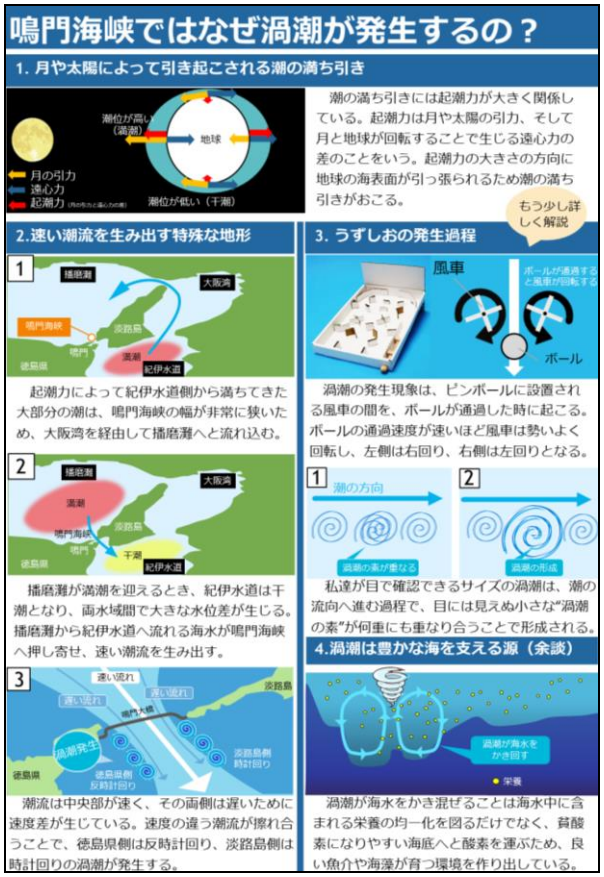


スナメリってどんな生き物？（クイズ編）
作成日：2022年3月　※PDF データ有

スナメリってどんな生き物？（解説編）
作成日：2022年3月　※PDF データ有

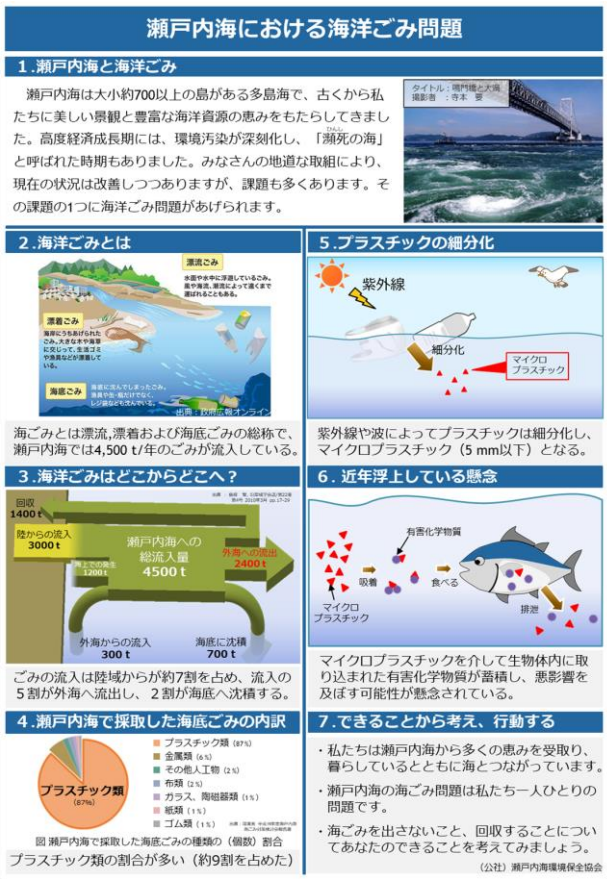
パネルサイズ　A1（縦）594×841 ㎜

鳴門海峡ではなぜ渦潮が発生するの？
作成日：2022 年3 月　※PDF データ有



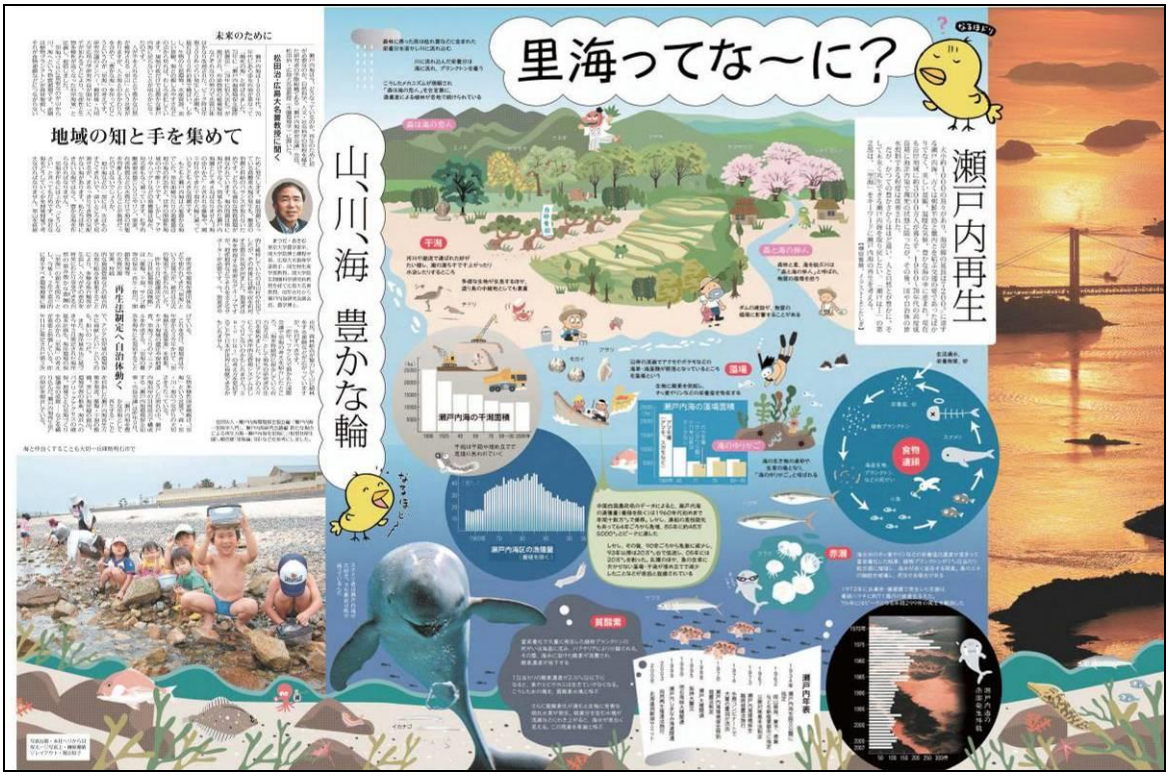
鳴門海峡の渦潮　ちょっこっと豆知識
作成日：2022 年3 月　※PDF データ有

瀬戸内海における海洋ごみ問題　※PDF データ有
作成日：2021 年11 月



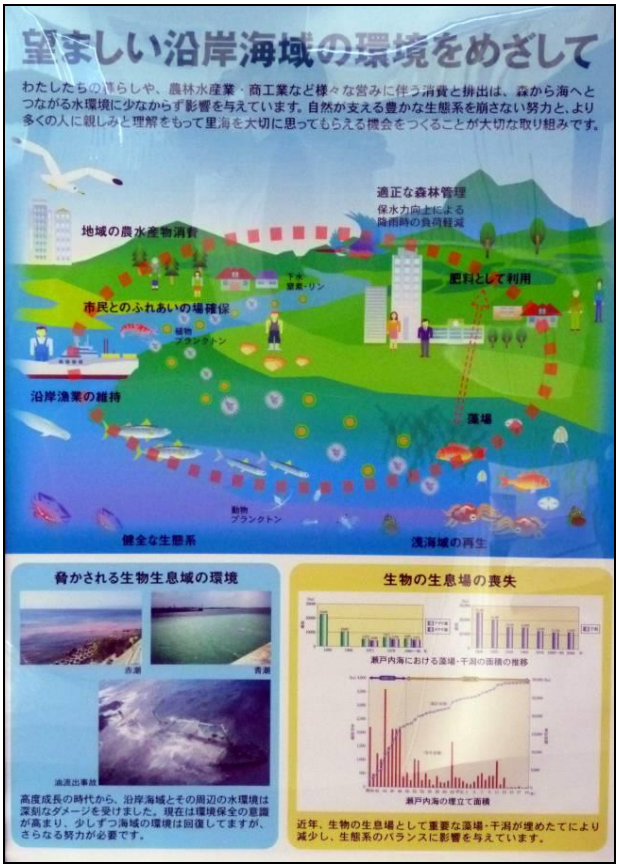
パネルサイズ　A1（縦）594×841 ㎜

SETO-D-01-J



SETO-D-02-J

SETO-D-03-J



※SETO-D-02-J、SETO-D-03-J に対応する英文版（SETO-D-02-E、SETO-D-03-E）はあります。

SETO-D-04-J　＊JPG データ有

里海って、なに？

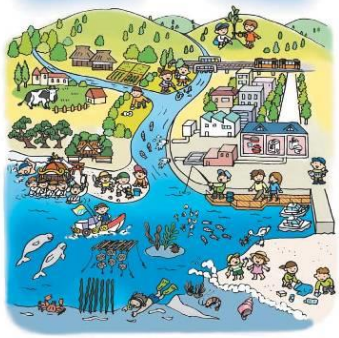
山と川と海のつながり、人とのつながり

日本は海に囲まれた山の多い島国で、貝塚遺跡からの海産物や木の実などの出土品に見られるように、昔から海や山とのかかわりを持った生活文化を育んできました。

例えば昭和の初期頃までは、海藻は、食料として、畑の肥料として、段々畑の石垣などの補修材として、アマモの石風呂などに、また、白砂青松と評される松は、防潮・防風、魚付林、塩の生産や台所の燃料や、建築・農具・漁具の材料として、人々の生活に多面的に利用されてきました。

ところが、昭和45年頃の高度経済成長期の頃から、人と沿岸海域とのかかわり方が変わってきました。海の埋め立てなどにより海岸線の形状が変化し、エネルギーを石油に依存する社会となり、化学肥料が普及したことから、人が海と接する機会が減ってしまいました。さらに、ダムや堰により、川を通じた森から海までの生態系のつながりが分断され、陸域に捨てられたごみが、浮遊ごみや漂着ごみとなる等、沿岸海域の環境悪化を招いています。このため、沿岸海域における生物生態系や海域環境の再生には、森から海までの健全な物質循環の再生が不可欠となっています。

このように失われた海域環境の再生や残された良好な海域環境の保全を行うために、「里海」という考え方が提唱されました（柳、平成10年、平成18年）。



社団法人　瀬戸内海環境保全協会
The Association for the Environment Conservation of the Seto Inland Sea

SETO-D-05-J　＊JPG データ有

里海って、なに？

海の環境保全と再生の必要性

里海とは、「人手が加わることにより生物生産性と生物多様性が高くなった沿岸海域」であると定義しましたが、この里海は、森や川、まちから流れ出た窒素やリンなどの栄養塩と呼ばれる植物の成長に欠かせない栄養塩によって支えられます。

この栄養塩が少なくなると、貧栄養の状態になり、海の生物生産の基礎となる植物プランクトンが増えず、これを利用する海の生物の種類や個体数が低下するので、海の生物の生産性が低くなります。例えば、ノリが十分に成長できなくなるなど、漁業活動にも影響を与えます。また、栄養塩が多くなると植物プランクトンが増殖し、これを上位の動物プランクトンに転送されない（捕食されない）と、赤潮や貧酸素化といった海の環境に大きな影響をもたらす現象を引き起こします。

このように栄養塩により、海域における太い循環と、滑らかな物質循環が生れることになります。

健全な海域環境では、植物プランクトンが動物プランクトンや小型の魚類、貝類の餌となり、さらに大型の魚類に利用され、魚類や貝類などが鳥や人間に利用されるといった生態系の連鎖（長い循環）が生まれます。これらの間の物質循環が滑らかに行われないと、どこかに過剰な段階が生じてバランスが崩れることになります。

このように、「太く・長く・滑らかな物質循環」を実現することが里海の基本になります。人々が対象となる区域のどの部分にどのような手を加えることが、この「太く・長く・滑らかな物質循環」を実現することになるかを検討し、活動を行うことが大切です。

社団法人　瀬戸内海環境保全協会
The Association for the Environment Conservation of the Seto Inland Sea

SETO-D-06-J　＊JPG データ有

里海づくり 1

里海づくりとは？

1 沿岸海域や流域に適切な人手を加えることにより、生物多様性を保全・再生しながら健全な物質循環を取り戻し、現状よりも多くの恵みを継続して受けられることができるようにすることです。

2 沿岸域の多様な主体が、身近な海に興味を持ち、身近な海を守るための様々な活動に何らかのかかわりを持って参画し、それぞれが協働して活動を進めることにより地域情報を交換し、人々の交流の輪を広げていくものです。

3 単なる空間の概念にとどまらず、人々の日々の暮らしや海の環境改善のために取り組む活動を示す運動の概念でもあります。

社団法人　瀬戸内海環境保全協会
The Association for the Environment Conservation of the Seto Inland Sea

SETO-D-07-J　＊JPG データ有

里海づくり 2

里海づくりの方法

自然と人間のかかわり方は様々であり、そのかかわり方によって、自然を守ることにも、また自然を破壊してしまうことにもなります。したがって、人手の加え方が重要となってきます。

陸域から排出される汚濁物質などによる水質悪化、藻場・干潟等の減少、海ごみの増加、海の生物多様性の減少や生物個体数の減少などに対し、人の手を加えることで、海域環境の悪化を食い止め、良好な環境を回復する手助けとなり、豊かな海の創生につなげることができます。

一方で、例えば禁漁区を設けるなど、特定の海域について人の手を加えないようにして、原生自然に近い海域環境の保全、海域の生態系の保護等を図ることも、人手が適切に加わって管理している状態の一つと言えます。海の環境に応じて地域ごとの海と人との適切なかかわり方を模索し、それを継続していくことが大切です。

里海づくりは、「物質循環」、「生態系」、「ふれあい」という活動により保全・再生される３つの要素（保全・再生要素）と、活動を実践する「場」と「主体」という２つの活動要素により構成されます。特に「場」「主体」という２つの活動要素が入っているので、単に里海という場、つまり空間の概念にとどまらず、沿岸住民、漁民の方々や、沿岸地域や流域の継続的な環境活動として根ざすことで持続的な取り組みが可能となる、活動自体を含めた運動の概念でもあります。

社団法人　瀬戸内海環境保全協会
The Association for the Environment Conservation of the Seto Inland Sea

パネルサイズ　A1（縦）594×841 ㎜

SETO-D-08-J　＊JPG データ有

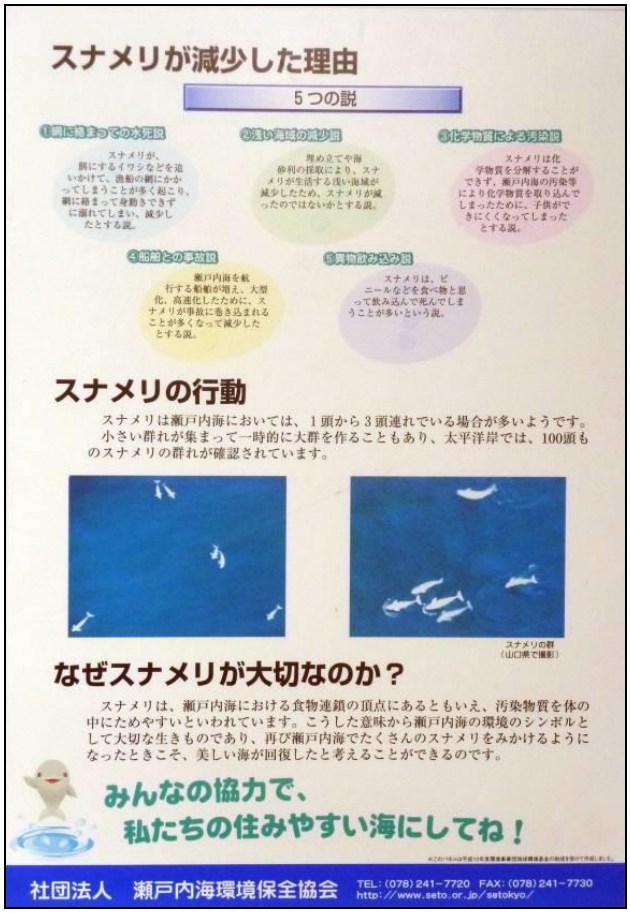
SETO-D-09-J　＊JPG データ有

SETO-D-10-J　＊JPG データ有

パネルサイズ　A1（縦）594×841 ㎜

SETO-B-01-J　＊JPG データ有

SETO-B-02-J　＊JPG データ有



SETO-C-01-J　※PDF データ有

SETO-C-02-J　※PDF データ有

パネルサイズ　A1（縦）594×841 ㎜

SETO-C-03-J　※PDF データ有

SETO-C-04-J　※PDF データ有

SETO-C-08-J

順位	品目	個数	%
1	タバコのすいがら・フィルター	1,971,551	27.2
2	食品の包装・容器	693,612	9.6
3	キャップ・ふた	656,088	9.1
4	袋類	587,827	8.1
5	飲料プラスチックボトル（2ℓ以下）	494,647	6.8
6	食器(カップ,スプーン,お皿等)	376,294	5.2
7	飲料ガラスボトル	349,143	4.8
8	葉巻などの吸い口	325,893	4.5
9	ストロー・マドラー	324,680	4.5
10	飲料缶	308,292	4.3
	合計	7,238,201	84.1